

秋の城下町を 10000人が疾走!

誰もが主役の 「松本マラソン」

2017.10.1 8:30 START



ランナーもボランティアも観客も、みんなが主役! 城下町をコースに組み込んだ第1回松本マラソンが、10月1日に開かれます。全国から参加申し込みが殺到して定員の1万人がすぐに埋まるなど、注目度の高さがにじむこの大会。今回は記念すべき第1回を間近に控えた市民マラソンにスポットを当て、携わる人々の思いに耳を傾けてみましょう。



ランナー
インタビュー

- 1: 市民ランナー歴
- 2: 出身はどこですか?
- 3: 今までに大会は出たことはありますか?
- 4: 松本マラソンへの意気込みを教えてください
- 5: 街中を走るコースですが楽しみはありますか?

村上 順子 さん

- 1: 6年ほど
- 2: 松本市出身
- 3: 諏訪湖マラソン・長野マラソン・乗鞍天空マラソンなどに2回出る時もあります
- 4: 完走を第一に4時間30分を目指して走ります!
- 5: 弘法山や城山・アルプス公園など見ながら楽しく走りたいですね。



柳澤 洋一 さん

- 1: 13年くらい
- 2: 軽井沢出身
- 3: いろいろ出てます! 年10回は大会に出ていると思う
- 4: 4時間目指して楽しみます!
- 5: 松本市はあまりしらないので、見学、観光しながら走りたいですね!



西村はるみ さん

- 1: 2~3年
- 2: 愛知県出身 現在は穂高在住
- 3: トレイルランニングやハーフマラソンは度々大会に出たことはあるけれどフルマラソンは3回ほど
- 4: 4時間を切る! 頑張ります!
- 5: 知っている街だけども車でするくらいなので走りながら色々見れたら楽しいと思います。

- 1: 松本市周辺
- 2: 初ボランティア参加
- 3: 熟年体育大学時代の仲間総勢9名で参加します! 松本マラソンのTシャツを着てPRしたりしてます。



熟年体育大学15期のみなさん

ボランティアインタビュー

- 1: 出身はどこですか?
- 2: ボランティア歴またどのようなボランティアを?
- 3: 松本マラソンのボランティアに参加するきっかけは?

volunteer 03



volunteer 01

- 1: 上田市
- 2: トレランで数回ボランティアをした
- 3: 大学時代の仲間が全国から集まりマラソンに参加するので、皆を応援しながらボランティアをしようと応募。



volunteer 02

- 1: 松本市
- 2: 諏訪湖マラソンなど救急班で数回
- 3: いろいろなボランティアをしたがマラソンではどのようなチームで組んで42.195kmを配分するか楽しみ!

きっかけは6年ほど前。市内を舞台にした地域のマラソン大会が一つ、二つとなくなっていく時期のことでした。「公道を使った大きな大会を開いてはどうか」との意見が出始め、松本市が検討をスタート。さまざまな関係機関の協力を得て実現が決まり、昨年3月に実行委員会が発足しました。

松本マラソンの特徴は、何と言ってもコースの設定でしょう。松本市総合体育館をスタートして松本平広域公園陸上競技場をゴールとする42.195キロのフルマラソンですが、松本城の目の前など市街地を通ります。「スカイパーク付近だけのコースなら規制が少なく運営の負担は少ないですが、できるだけ市を一体にしたいし、松本の城下町を走ってみたい」という思いがありました。実行委員会事務局の花村憲二さんはそう力を込めます。

もともと風光明媚な観光都市として全国的にも人気の高い松本市。そこがコースとなることも手伝ってか、市民ランナーの皆さんの関心は高かったようです。3月1日に募集を開始すると、初日に定員の半分以上を超える5000人の応募が殺到。わずか3週間で応募は締め切り、最終的には全国の47都道府県すべてからランナーが訪れることになりました。集まるかどうか心配だったという思いは杞憂に終わり、花村さんは「ランナーの方々の期待値は高いと思います。城下町は決して道が広いわけではないので、安全第一でしっかり運営しないと口元を引き締めています。

内訳は県内と県外がほぼ半数ずつ。県内の参加者のうち、市内からの参加者は約1500人とのこと。このほかゲストラランナーも多彩。松本山雅FC、信州ブレイブウォリアーズ、信濃グランセローズの関係者らが加わるほか、1968年メキシコオリンピック銀メダルなど数々の輝かしい実績を持つ76歳・君原健二さんも出走。喜寿を控えてなお健康な現役ランナーで、「健康寿命延伸都市」を掲げる松本市を舞台にした第1回大会にはうってつけのゲストと言えるでしょう。

1万人のランナーに快適に走ってもらうためにはさまざまな側面からの支援が欠かせません。ボランティアの皆さんもその中で重要な役割を果たします。参加するのは、沿道周辺の学校や地元企業、個人など約3100人。これに警察や警備、県陸上競技協会なども含めると、大会を支えるのは総勢約4000人に上ります。5カ所ある給水所のうち、筑摩野中では生徒40人と地域住民40人が一緒に給水係に。他には地元産のリンゴを提供する給水所も設けられます。

塩尻市の一部もコースに入り、このうち吉田地区では丘中の生徒ら80人がコース整理に当たる予定。応援スペースは沿道に計20カ所設けられ、和太鼓や吹奏楽、アルプホルンなどさまざまな趣向を凝らしたおもてなしでランナーを後押しします。沿道の応援をおなじみの「旗」は、代わりに裏が無地のうちわを用意。そこに応援メッセージを書いて振ってもらうという試みで、すでに市内の全小中学校に約21000枚を配りました。さらに、「花いっぱい運動」発祥の地としてフィニッシュ会場に飾る花を育ててもらおうよう、希望者にプランターや苗など一式を渡してあります。

かつてはランナーとして市民マラソンに参加した経験もある花村さん。今回は企画する立場になり、「ボランティアの皆さんとか裏で支えてくれる方々に感謝したい」という思いが芽生えたと言います。大勢の市民が情熱を注ぎ、長年の準備を経て始まる第1回松本マラソン。10月1日午前8時30分、新たな歴史の幕開けを告げる号砲が鳴り響きます。



ボランティアは約3000人
沿道でのイベントも多彩に



「城下町を走ってほしい」と
あえて運営の難しいコースに